

大学生がまちづくりへ政策提言

～第4回全国大学政策フォーラムin登別～

8月10日(月)～12日(水)の3日間、登別市で『第4回全国大学政策フォーラムin登別』(同実行委員会主催)が開催されました。

このフォーラムは、自治体政策を学ぶ大学生が登別市に集い、フィールドワークを通してまちづくりの実態を学び、自治体政策などについての提言を行うことを目的としています。4回目となる今年は、全国の大学から過去最大の7大学96人の学生が参加しました。

今年のテーマは『市民自治ネクストジェネレーションの創造』と題し、10、11日に市内で行った調査を基に、最終日の12日に各グループが持ち時間8分の中、『広報のぼりべつの改善による市民自治の推進』など実現性の高い提言や『郷土カルタによる郷土愛の育成』など、さまざまな視点からアイデア溢れる政策提言が行われました。

その後、入賞したグループやまちづくり団体の代表など7人をパネリストにフォーラムが行われ、提言内容について議論を深めていました。



▲アイデア溢れる政策提言の発表



▲まちづくりの実態を学ぶフィールドワーク

雨の中の豊水トントンに温かい声援

～2009のぼりべつ豊水まつり～



7月18日(土)と19日(日)の2日間、幌別地区の夏のイベント『2009のぼりべつ豊水まつり』(同実行委員会主催)が、幌別北駅前通りとらいば公園周辺を会場に開催されました。

小学生による開会宣言で幕を開けた豊水まつりは、あいにくの雨により中止になったイベントもありましたが、太鼓の競演がアーンズの協力により建物内で行われたほか、幌別中学校吹奏楽部の演奏やカラオケ、ビンゴ大会などが予定通りステージで行われました。

メインイベントとなる大群舞『豊水トントン』には、地元企業や町内会などの13団体約550人が参加。小雨の中も沿道の市民の温かい声援を受けて踊っていました。

今回の開催では日本工学院北海道専門学校の学生が企画段階から参画。学生の新しいアイデアを取り入れながらのイベントに、若者たちの生き生きとした姿が見られました。

みんなで楽しく‘ホウホウ笛’作り

～図書館夏休み工作～

7月29日(水)、8月5日(水)の2日間、市立図書館で夏休み工作『紙ねんどで小鳥、怪獣などの‘ホウホウ笛’作り』(市主催)が行われました。

この催しは、幼児や小学生が、作品を作ることを楽しさを感じ、交流の輪を広げることを目的に開かれ、保護者を合わせ25人が参加しました。

7月29日は、紙ねんどでうさぎやぞう、ペンギン、イルカなどの動物やキャラクターを作り、8月5日に乾燥させた作品の中をくり抜き、吹き口を整え、絵の具で色を付けて笛を完成させました。

子どもたちは、和気あいあいと話しながらも真剣に取り組み、早速完成した笛を「ホウホウ」と吹き合いながら楽しんでいました。

